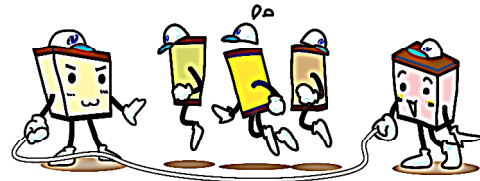


(3) チャレンジ 8の字とび(養える力:瞬発力、巧緻性、持久力、協力、公正)

3分間、8の字とびによる連続回旋跳びを行い、なわを何回跳べたかを競う。

ア 準備

- ・ 長なわ
- ・ ストップウォッチ



イ 方法

- ・ なわを回した状態から、計時の「はじめ」の合図で跳び始める。
- ・ 最初に並んだ順番どおりに跳ぶ。
- ・ 3分たった時点で、計時は「終わり」の合図をする。3分間以内であれば、途中で失敗しても継続して跳んでよい。跳んだ回数は3分間の総計とする。
- ・ なわが体にかかって跳べなかったり、跳ばずになわを通り抜けた場合の回数は跳んだ回数には含めない。
- ・ 1回旋ごとに1人または数人で跳んでもよいが、跳んだ回数は1回旋を1回とし跳んだ人数とはしない。

ウ グループ編成

- ・ 学級全員で1つのグループとして行うか、学級をいくつかのグループに分けて行う。(グループ数は学級で工夫する。)
- ・ 人数が少ない学級は、異学年の児童を加えて行ってもよい。ただし、記録登録は、最も上の学年の児童が在籍する学年とする。
- ・ 特別支援学級及び小学部の学級は、1つのグループで行う。

エ 記録と参加人数

- ・ 複数のグループをつくって行った場合は、各グループの跳んだ回数の合計をグループ数で割り、その平均回数を記録とする。平均回数が小数となった場合は、小数第3位を切り捨て、小数第2位までとする。
- ・ 1つのグループで実施した場合は、そのグループが跳んだ回数を記録とする。
- ・ 複数のグループで実施した場合、実施日はすべて同じでなければならない。
- ・ 参加人数は、各グループのなわを跳んだ児童数の合計とする。ただし児童がなわを回した場合は、なわを跳んだ児童数となわを回した児童数の合計とする。教師等の数は含めない。

オ 実施上の注意等

- ・ 実施場所は、運動場。または、体育館等とする。
- ・ 使用するなわの長さや種類は自由とする。
- ・ なわを回す人は、手袋等を使用してもよい。
- ・ 児童、教職員または保護者等がなわを回す。
- ・ 記録挑戦の際は、原則として教師の立会いのもと実施し、計時・計測を行う。